

【報告事項 1】 2019（令和元）年度事業報告の件

1) 2019 年度国際会議開催

2019 年 11 月 27 日から 29 日の 3 日間、一般社団法人映像情報メディア学会（ITE）と The Society for Information Display（SID）の共同主催で、札幌コンベンションセンターにて第 26 回ディスプレイ国際ワークショップ（IDW '19）を開催した。Keynote Addresses キーノート講演としては、まず、Sharp の伊藤康尚氏より新しいディスプレイの応用分野について、マツダの大池太郎氏よりドライバー中心に発想した新しい車載ディスプレイのありかたについてご講演頂いた。次に、Invited Addresses として、香港科技大学の Kei May Lau 先生よりマイクロ LED ディスプレイについて、Starkey Hearing Techs. の Achin Bhowmik 氏より人工知能（AI）による画像認識についてご講演頂いた。特に今年は Keynote Address において自動車業界から初めてご登壇いただいたこともあり、ご講演内容に連動した技術展示（Keynote Exhibition）を設け、現在の技術として実車およびコックピットシステムの構成部品を展示いただくとともに、将来コックピットを体感できるモデルをも展示していただいた。発表論文数は 465 件（昨年 469 件）と昨年より 4 件減少し、参加者数も 1,242（昨年 1,376 名）と昨年より 134 名減少した。開催費用は、59,777,396 円（決算値）であった。新投稿システムを導入すると共に、IDW '19 で発表された論文に DOI を付与した。

2) 中長期的検討

昨年度から引き続き中長期的な IDW の運営の議論を実施した。2019 年度は 6 月 14 日、10 月 25 日、3 月 5 日に委員会を開催し、主に、下記の通り決定した。

- ・ IDW 論文の DOI 付与および Proceedings のオープンアクセス化に向けて議論を行い、オープンアクセス時期を 2020 年の 5 月 1 日にすることなどを決定。
- ・ 新たに創設した小林・内池・御子柴賞の授賞式の運営方法を決定し、それに基づいて、3 名の受賞者の選定、および IDW '19 オープニングでの表彰を行った。
- ・ 賛助金活性化に向けて、海外企業にも賛助金の募集を行うことを決定

3) 会員関連

i) 賛助会員

2019 年度における賛助会員数の推移は次の通り。

- ・ 2014 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2015 年度の賛助会員数：7 社
- ・ 2016 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2017 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2018 年度の賛助会員数：8 社
- ・ 2019 年度の賛助会員数：8 社

ii) 社員

2019 年度における社員数の推移は次の通り。

- ・ 2019 年 4 月での社員数：58 名
- ・ 2019 年度の増減：入社：1 名、退社：3 名
- ・ 2020 年 4 月 14 日現在の社員数：56 名

iii) 準社員

2019 年度における準社員数の推移は次の通り。

- ・ 2019 年 4 月での準社員数：5 名
- ・ 2019 年度の増減 増：1 名、減：0 名
- ・ 2020 年 4 月 14 日現在の準社員数：6 名

4) 財務関連

科研費による助成の有無によって、実行委員会の収支が大きくぶれるため、実行委員会に対し最大年 450 万円の赤字補填を行っている。IDW ' 19 では科研費の助成がなかったため、計画通り赤字補填を行った。

IDW ' 19 では、参加者収入が想定を下回ってしまい当初見込みに反して赤字となった。組織委員長の顛末書に基づき、参加人数および属性のゆらぎによって発生したと判断し国際会議事業運営給付金により赤字を補填した。

以上